令和6年度第2回山形市男女共同参画センター運営委員会会議録

日 時 令和7年2月12日(水) 14時00分～15時25分

場 所 山形市男女共同参画センター5階 視聴覚室

I 出席者

【委員】佐藤慎也委員長、横尾峰子副委員長、阿部由希委員、川合芳光委員、佐藤知恵委員、
関原あずみ委員、高瀬謙治委員、中嶋愛委員、長尾景子委員

【事務局】伊藤企画調整部長、高橋男女共同参画センター所長、遠藤副所長、板垣係長、
大石主査、後藤主査、石澤運営事務員

II 傍聴者 0名

III 会議

- 1 開会 遠藤副所長
- 2 企画調整部長あいさつ 伊藤部長
- 3 委員長あいさつ 佐藤委員長
- 4 議事
(1) 報告
令和6年度事業進捗状況について 事務局
(2) 協議
令和7年度事業計画(案)について 事務局
- 5 その他
- 6 閉会 遠藤副所長

【審議経過】

(1) 報告

令和6年度事業進捗状況について、事務局から資料に基づき説明があった。

(委員) 連携中枢都市圏の利用に関して、一般相談における中山町や貸館利用団体における天童市について他市町に比べて利用者が多くなっているようだが、何か理由があるのか。

(事務局) 一般相談における件数については、お一人の方が複数回利用した場合でも、それぞれを1件としてカウントしている。

(委員) 生理用品の無償配布について、申し出に対しどのくらいの個数をいただけるのか。また、複数回申し出される方もいらっしゃるのか。

(事務局) 申し出に対し、おおよそ22、3個ぐらい入りの1パックを渡している。また、同じ方が複数回申し出ている場合もあるようだが、回数の制限は設けていないことから、申し出があれば渡している。

(委員) 自主企画講座を見学することは可能か。

(事務局) 講座参加者が、見学者がいるというのを想定していないことから、希望があれば、事前に相談させていただきたい。

(委員) 楽しんで受講されているのか興味がある。

(事務局) ぜひ見学できるような方向に工夫したいと思う。講座を見学することにより何かヒントや気づきがあるかもしれないので今後検討する。

(委員) カラフルパレードについて、ニュース等でどのくらい参加されている確認できるが、参加者同士の交流の場は特別設けたりしているのか、パレードの際に参加者同士で話をするだけなのか。

(事務局) 山形市内で開催されたカラフルパレードは今年度で3回目であり、3回ともセンター職員が参加している。パレードの参加者同士歩きながら交流を図ったり、スタートとゴール地点で、ミーティングのような催しがあり、参加者や参加団体から参加した経緯や活動内容、イベントのPRの時間も設け、楽しい感じでパレードが行われている。また、パレード後には交流会も開催されているようである。

- (委員) 学生時代にアメリカにおいて、日本人ということで逆にマイノリティみたいな感じで、大学のみんなとワイワイガヤガヤしながら歩き、自分たちの存在を主体的にアピールする、そのような機会があった。
- (委員) 男女共同参画というワードを最近あまり使わなくなってきたり、ダイバーシティやインクルージョン、ジェンダーフリーなどが使われている印象がある。国などで名前の変更という動きはあるのか。
- (事務局) 山形市においては、国の動きなどにとらわれずに、時代に合わなくなっているものは積極的に変更していくというスタンスであるため、流れを見て検討する。
- (委員) 世の中の発展とともに新しい概念で物事が考えられるようになっていくというのは、素敵なことだと思う。

(2) 協議

令和7年度事業計画(案)について、事務局から資料に基づき説明があった。

- (委員) 連携中枢都市圏事業において、育児休業を取得した男性職員や関係者等へのインタビュー動画を作成・配信を行う事業について、その動画は何分くらいを予定しているのか。
- (事務局) 決定していない。長時間の動画よりも、ぎゅっと凝縮した方が、より多くの方が見てくれると思う。育児休業を取得した本人やご家族、上司の方などにインタビューを行い、その動画を見た方が育休をとってみようと思ってもらえるよう工夫していきたい。
- (委員) 先般、国立社会保障・人口問題研究所のホームページに、男女間での時間の使い方と少子化との関わりについての特集が掲載されており、今時間に追われているということ、自由な時間が持てないと思っ
ている方が多く、男女が時間についてしっかり考えることが必要と思った。
- (事務局) 令和元年度に実施した山形市で実施した男女共同参画の意識に関する市民調査において、平日1日平均の家事育児に携わる時間を調査した結果、男性は時間が短く、女性がとても長いという状況でした。山形市民だけではなく、世界と比較しても日本の特徴になっています。男性の家事や育児に携わる時間を少し増やして、その分女性の負担が減るような取り組みについても、男女共同参画プランでも大きな目標の1つに掲げておりますので、意識して事業を組んでいきたい。
- (委員) 最近はビデオでもネットでも倍速で見られるような状況になってきているので、「何で倍速なんだろう」って思ったら、やはり時間が足りない。与えられているのは1日24時間ですし。
- (委員) 学習事業のうち自主企画講座の講師(案)となっているが、講師の人は、いつごろ行われるのか。
- (事務局) 来年度の講師はすべて未定で、オファーも現時点でしていない。
講師の人の選について、まずファアラの運営に携わっていらっしゃる方で、講師を引き受けていただける方がいないか考え、その後、関係する団体に推薦を依頼する。例えば法律関連の講座であれば、県弁護士会に依頼するなど進めている。ただし、市内講師の情報を把握しているわけではないので、委員の方からもこのような講座には、このような講師の方がいらっしゃいますという情報提供をお願いできればと考えている。
- (委員) 広報事業について、ファアラの活動をもっとSNSで発信していただきたいと思っている。今年の自主企画講座のアンケートを見ると、参加者のほとんどが「広報やまがた」を見て参加されている方が多く、SNSや知人の紹介の割合がとても少ない。集合住宅の方に広報やまがたが配付ならない場合も多いので、ターゲットとしている層に届いてない可能性があるのではないか。イベントの他にも、例えば生理用品の配布事業も、自身、会議の中で初めてそういった事業を行っていることを知ったので、センター事業についてSNSを通してどんどん発信していただきたい。
- (事務局) 市においてSNS利用に関するルールがあるので、そのルールにのっとった上で、様々な媒体を効果的、積極的に使って情報発信していきたいと思っている。また、委員の方は、見せ方などのアドバイスもいただきたいと思う。
- (委員) 学生と接していると、これまでと使っているツールが違ってきている。SNSを活用することで、もっと広がる形を取れる可能性があると感じるので、事務局にも検討をお願いする。